

平成25年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査のねらいと結果のポイントについて

1. 調査のねらい等

【本年度調査の概要】

平成21年度以来の悉皆調査により、小学校は20,848校（全体の98.4%）、児童1,087,902人、中学校は10,500校（全体の95.0%）、生徒1,039,921人が参加。

【本年度調査の主な視点等】

現行の学習指導要領が実施されて初の悉皆調査であること、これまでの調査結果から運動する子供としない子供の二極化が課題として明らかになっていること等を踏まえ、本年度は、国・地方公共団体の取組、各地域・学校でのPDCAサイクルの円滑な実施に向けて、特に、

○運動が苦手、きらいな子供への取組の充実

○子供の運動やスポーツの主要な場である学校における体育・保健体育の授業での指導の改善

の根拠資料を確保することを視点において調査。

⇒スポーツ基本計画（平成24年3月30日）での「昭和60年頃の水準を上回ること」の達成とともに、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催に向けて広く子供たちに運動やスポーツへの関心喚起、実施を促すことにつながることも期待。

【上記視点による本年度調査の特徴的項目、初調査の項目】

学校における指導内容・方法・体制に係る児童生徒の意識、学校の取組について下記の項目等を調査、分析。

〔児童生徒の運動・スポーツ、授業への意識〕

○今よりもっと運動やスポーツをしてみようと思う条件

○各発達段階（小学生は入学前、低学年、5学年、中学生は、小学校低学年、高学年、中学校2年生）での運動やスポーツに対する意識の変化

○各発達段階での体育・保健体育の授業への意識、取組の変化

〔学校における取組〕

○運動やスポーツが苦手、きらいな傾向にある生徒、性別に応じた取組の有無とその内容

○体育専科教員、外部人材の活用

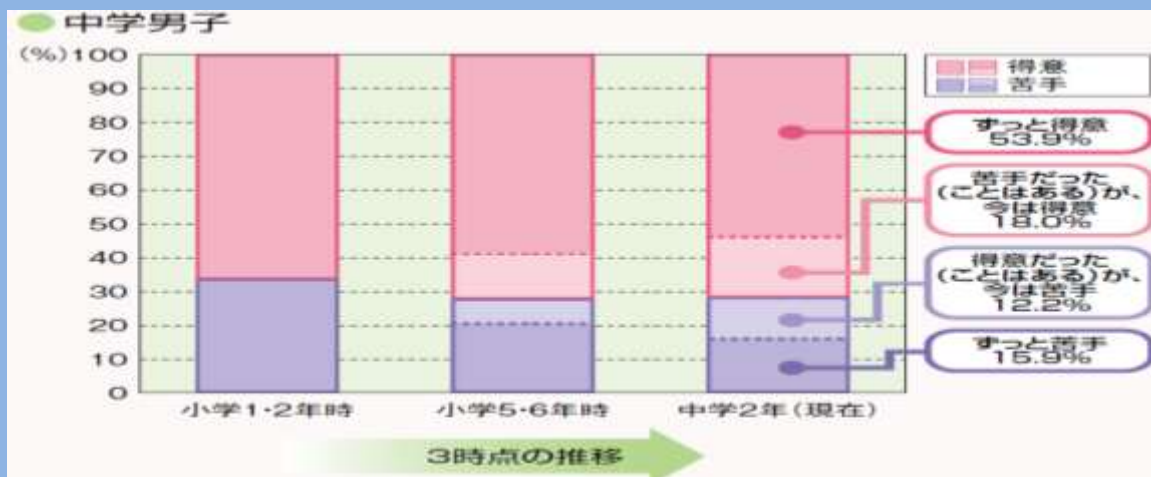
2. 本年度調査結果を踏まえて各地域・学校での体育・健康に関する指導の改善で特に参考とされることが望まれる7事項

下記のような調査結果を生かして、学校、学級の児童生徒の状況分析のうえ、学校全体で体育・健康に関する指導の改善を図ることを期待。

①児童生徒が「もっと運動をしてみようと思う」ための条件 〔中学校女子の場合〕

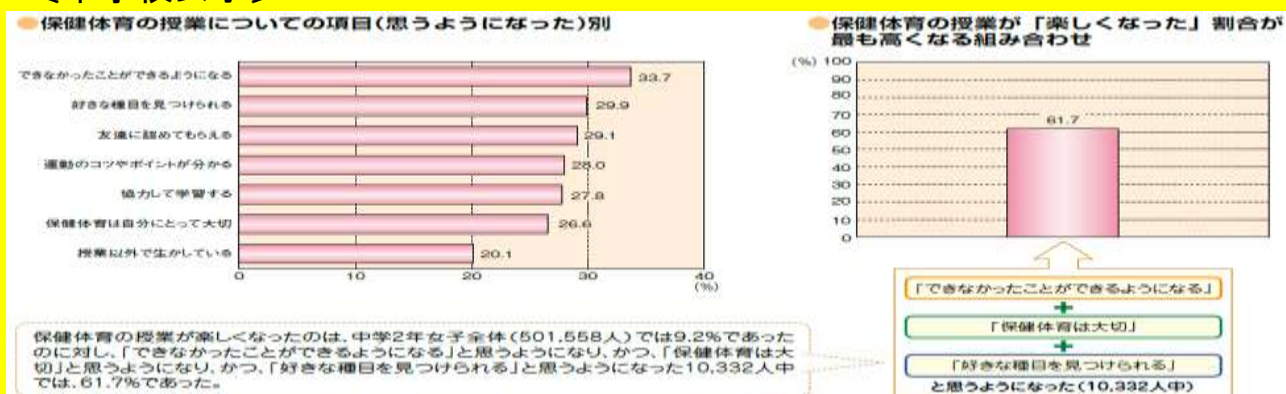


②児童生徒の運動やスポーツに対する意識の推移



なお、運動やスポーツが苦手(嫌い)傾向の児童生徒向けの取組をしている学校は体力合計点が高い傾向。

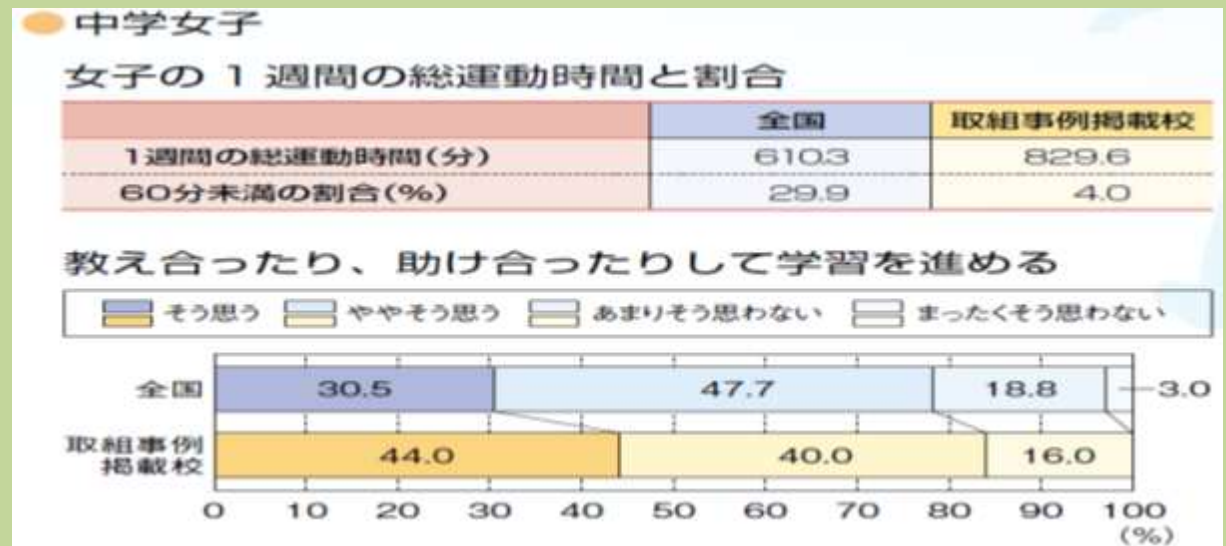
③「体育の授業が楽しくなった」と変化するきっかけとなる条件 〔中学校女子〕



④学校における指導体制（体育専科教員を活用している小学校の体力合計点の状況）の充実の成果



⑤ 1週間の総運動時間での二極化の状況



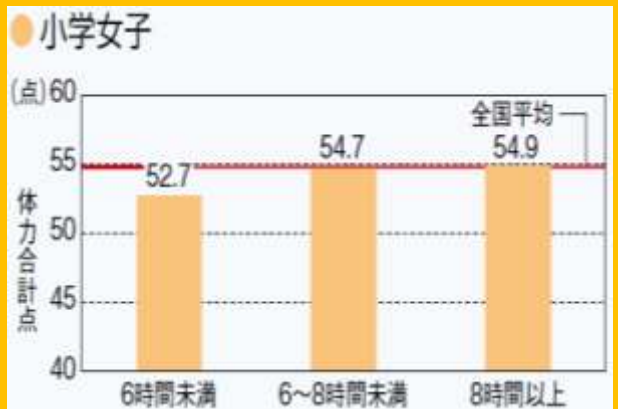
中学女子の30%は1週間の総運動時間が60分未満であるが、学校の取組等によって60分以上の総運動時間の生徒の割合が9割以上となっている学校もみられる。

⑥ 児童生徒の個別の体力・運動能力での課題



ボール投げは、小学男子の80%が昭和60年度水準を下回っている。

⑦生活習慣（睡眠時間）と体力合計点の状況

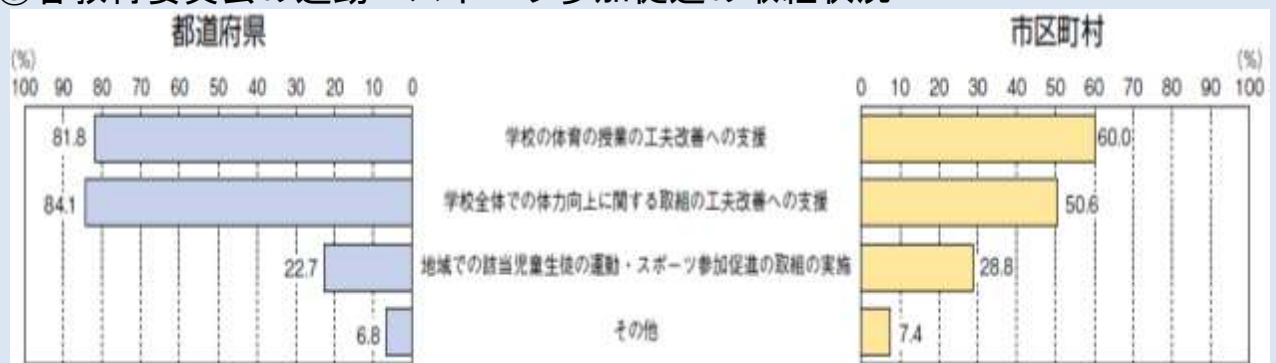


3. 各地域の状況

- ①各都道府県別の体力合計点（平均）の最大値と最小値の差
平成21年度調査結果（悉皆）と比較すると小学女子以外は差が縮小
- | | | | | | |
|--------|--------|------|---|--------|------|
| [小学男子] | 平成21年度 | 6.20 | ⇒ | 平成25年度 | 5.75 |
| [小学女子] | 平成21年度 | 6.83 | ⇒ | 平成25年度 | 7.13 |
| [中学男子] | 平成21年度 | 6.52 | ⇒ | 平成25年度 | 6.19 |
| [中学女子] | 平成21年度 | 9.36 | ⇒ | 平成25年度 | 9.18 |

- ②各地域別の体力合計点のD+E層の割合
平成21年度調査結果と比較すると最大と最小の地域での差が小学校女子以外は縮小。
- [中学校男子の例] 平成21年度 22.8 ⇒ 平成25年度 19.1

③各教育委員会の運動・スポーツ参加促進の取組状況



4. 文部科学省の支援

- 下記のような取組により各地域・学校の取組、授業の工夫改善を支援。
- 本年度報告書では、「運動が苦手・運動しない女子に対する取組」等、体育・保健体育の授業の工夫改善の参考となる事例を掲載。
 - 幼児期からの運動促進、小学校での教師用指導資料（デジタル教材）作成・配布、運動部や地域との連携の支援事業、子供の体力づくり研修 等

平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果【概要】

I 調査の概要

1 調査実施期間

(1) 児童生徒に対する調査

①実技調査実施期間……………平成25年4月から7月末までの期間

②児童生徒質問紙調査実施期間……………調査票到着から7月末までの期間

(今年度に限り9月13日までの期間)

(2) 学校質問紙調査実施期間……………調査票到着から7月末までの期間

(今年度に限り9月13日までの期間)

(3) 教育委員会質問紙調査実施期間……………調査票到着から7月末までの期間

2 調査対象

・小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年

・中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年

ただし、特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒については、その障害の状況等を考慮して、参加の是非を判断。

3 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

・実技に関する調査

[小学校、中学校8種目]

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、

※持久走(男子1500m女子1000m)、20mシャトルラン、

50m走、立ち幅とび、ボール投げ(小学校:ソフトボール、中学校:ハンドボール)

※小学校は20mシャトルランのみの実施

中学校は持久走か20mシャトルランのどちらかを選択して実施

・質問紙調査(運動習慣、生活習慣、食習慣等)

本年度は運動、生活、食習慣とともに、もっと運動やスポーツをするようになる条件、各発達段階での運動やスポーツに対する意識、体育(保健体育)の授業についての意識を調査

(2) 学校に対する調査

・質問紙調査(子供の体力向上に係る学校の取組等)

本年度は運動時間が少ない子供、運動やスポーツが苦手・きらい傾向の生徒、性別に応じた取組、運動部活動での指導内容や方法の改善充実に係る取組も調査

(3) 教育委員会に対する調査

・質問紙調査(子供の体力向上に係る施策等)

4 調査学校数、児童生徒数

・調査学校数 31,346校(小学校:20,847校 中学校:10,499校)

【小学校調査】※参加学校数及び学校総数には特別支援学校を含む

	参加学校数(A)※	学校総数(B)※	参加率(A/B)
小学校	20,848	21,194	98.4%

【中学校調査】※参加学校数及び学校総数には特別支援学校を含む

	参加学校数(A)※	学校総数(B)※	参加率(A/B)
中学校・中等教育学校	10,500	11,052	95.0%

・調査児童生徒数 約211万人

小学生:約108万人(男子:約55万人、女子:約53万人)

中学生:約103万人(男子:約53万人、女子:約50万人)

II 調査結果の概要

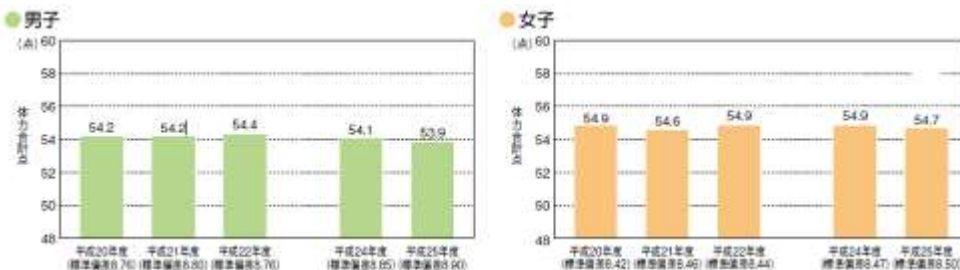
1 今年度の児童生徒の状況

(1) 体力

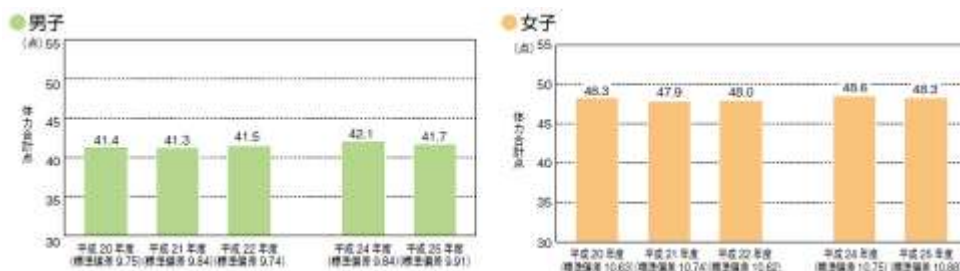
① 体力合計点の推移 [報告書 44p, 80p]

体力合計点は、小学校・中学校・男女すべてにおいて、過去の調査と比較して大きな変化は見られなかった。

【小学校】



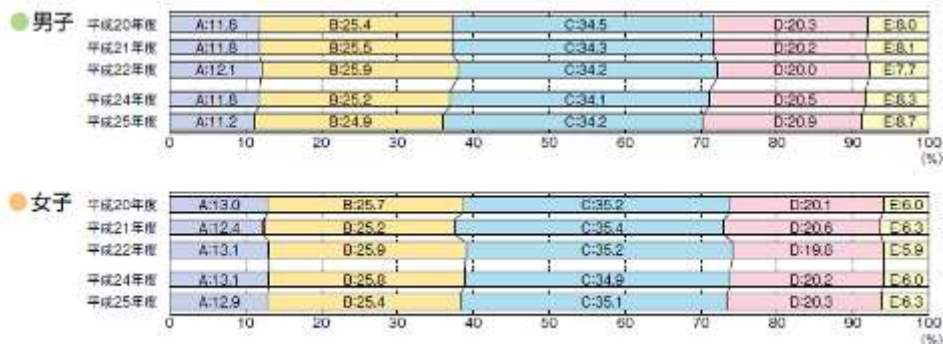
【中学校】



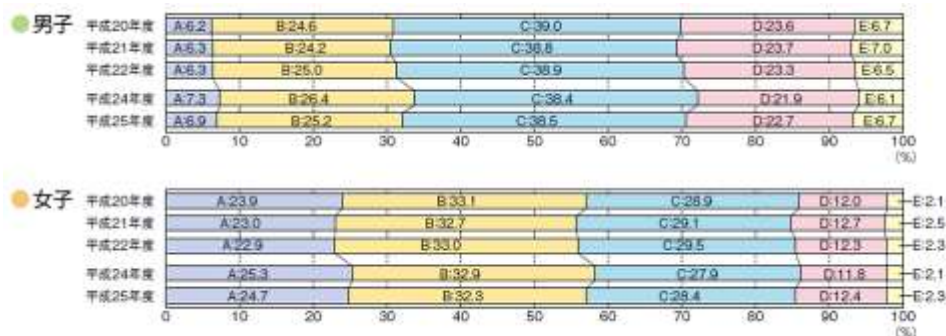
② 体力総合評価の推移 [報告書 44p, 80p]

体力総合評価は過去の悉皆調査時と比べて、小学校男子でABの割合が減り、DEの割合が増えた。中学校男子ではABの割合が増え、DEの割合が減った。女子は小学校、中学校ともに5回の調査でほぼ同様の割合であった。

【小学校】



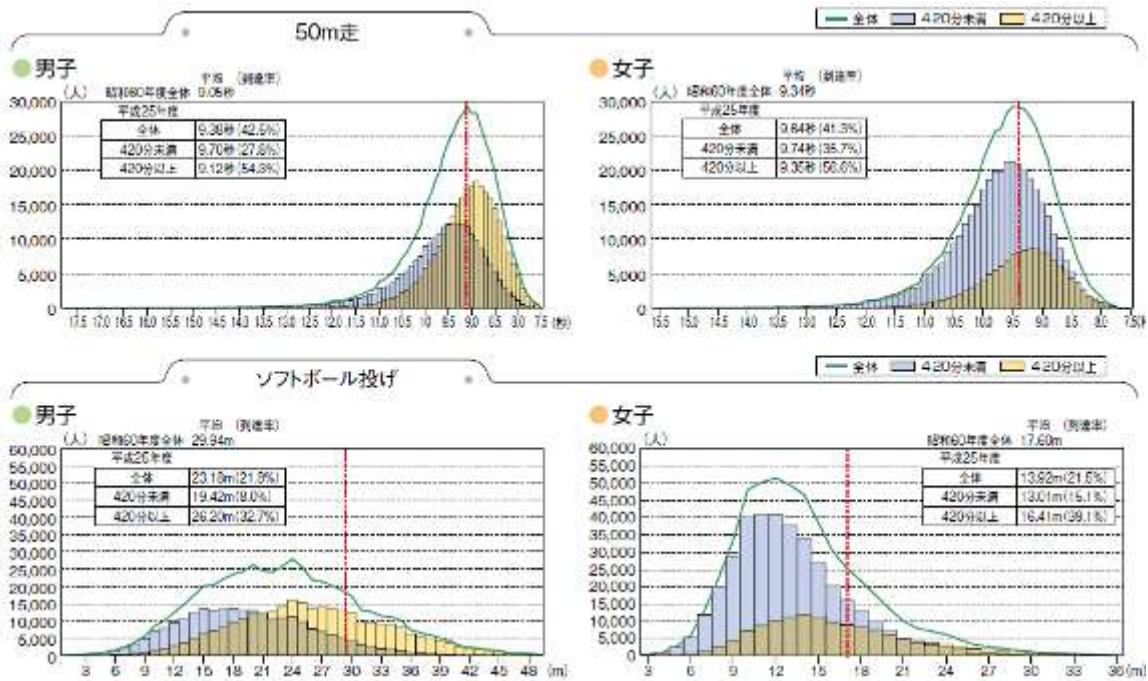
【中学校】



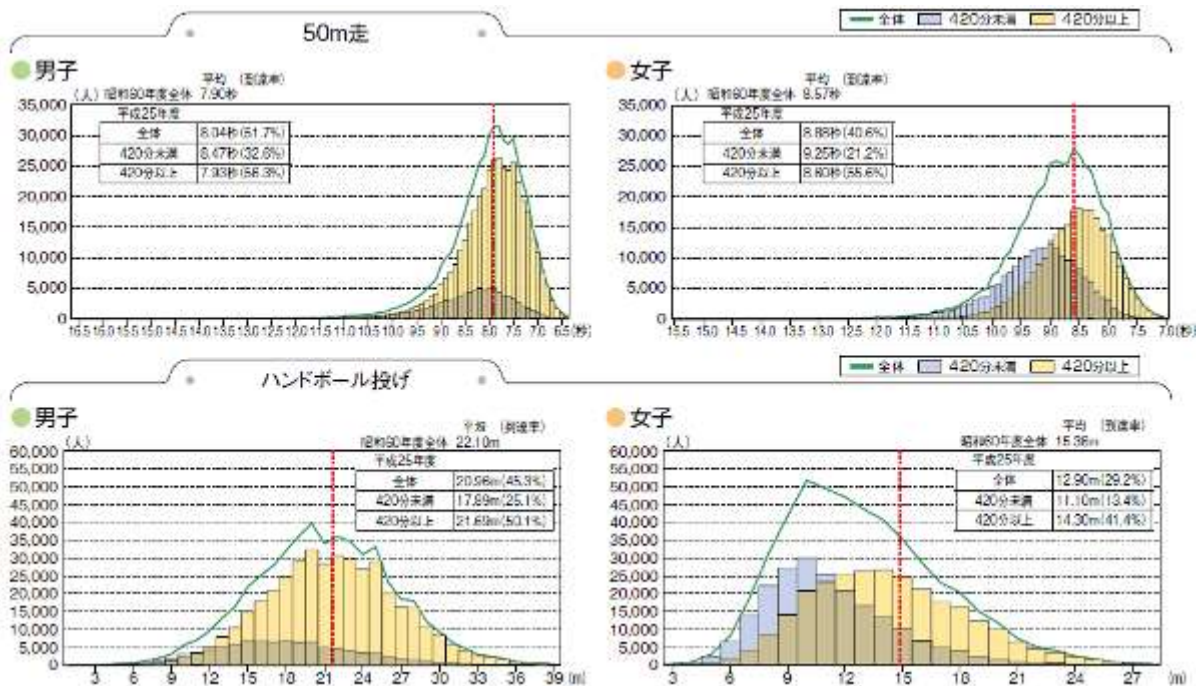
③ 1週間の総運動時間からみた昭和60年度水準の到達率 [報告書 35p、71p]

昭和60年度と比較可能な種目すべてにおいて、男女とも、1週間の総運動時間が420分以上の児童生徒は420分未満の児童生徒に比べて、昭和60年度水準到達率（各種目の昭和60年度平均値に到達した児童生徒の割合）が高かった。

【小学校】 ※グラフ中の縦の赤の点線は昭和60年度の平均値、表中の到達率は昭和60年度水準到達率



【中学校】 ※グラフ中の縦の赤の点線は昭和60年度の平均値、表中の到達率は昭和60年度水準到達率

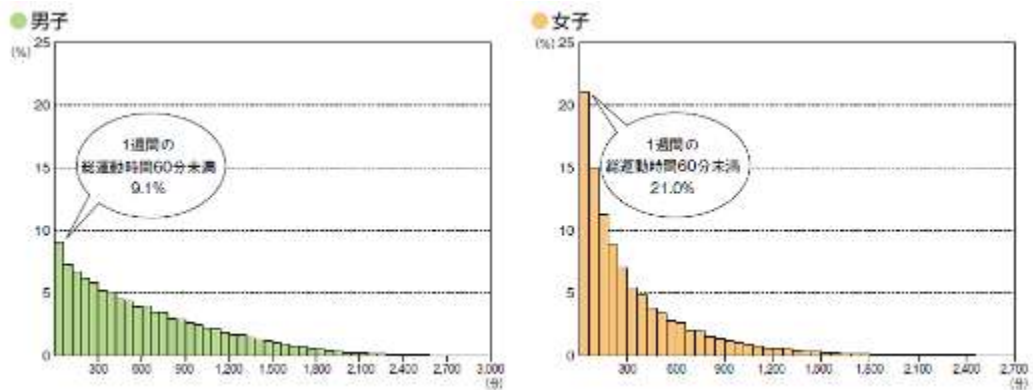


(2) 運動習慣の状況

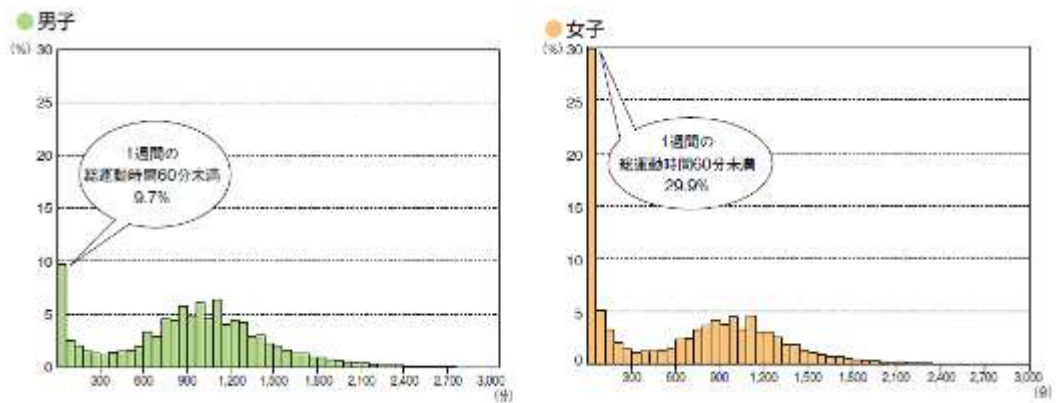
① 1週間の総運動時間の分布 [報告書 34p、70p]

1週間の総運動時間では、中学校で運動する生徒としない生徒の二極化がみられた。女子については、小学生で 21.0%、中学生で 29.9%の児童生徒が1週間の総運動時間が60分未満であった。

【小学校】



【中学校】



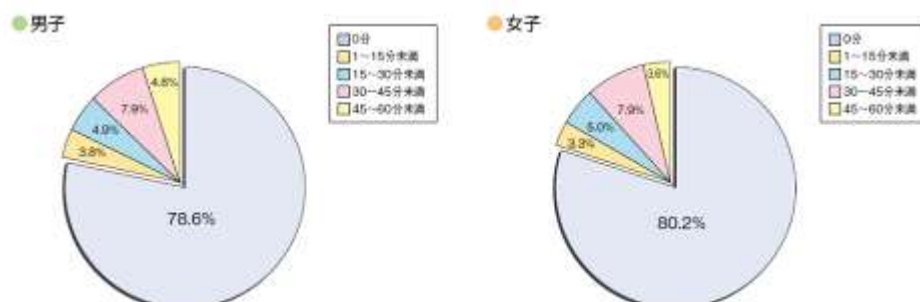
② 1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の運動時間の内訳 [報告書 34p、70p]

1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の運動時間の内訳をみると、総運動時間が0分なのが、小学校女子では 47.6%、中学校女子では 80.2%だった。

【小学校】



【中学校】



2 運動実施時間、運動の好き・嫌い、運動能力別にみた、もっと運動するようになる条件 [報告書 36p・37p、72p・73p]

児童生徒に対する「もっと運動するようになるには」の質問項目の結果(報告書 31p、67p)を、1週間の総運動時間、運動やスポーツの好き・嫌い、体力総合評価別に比較した。

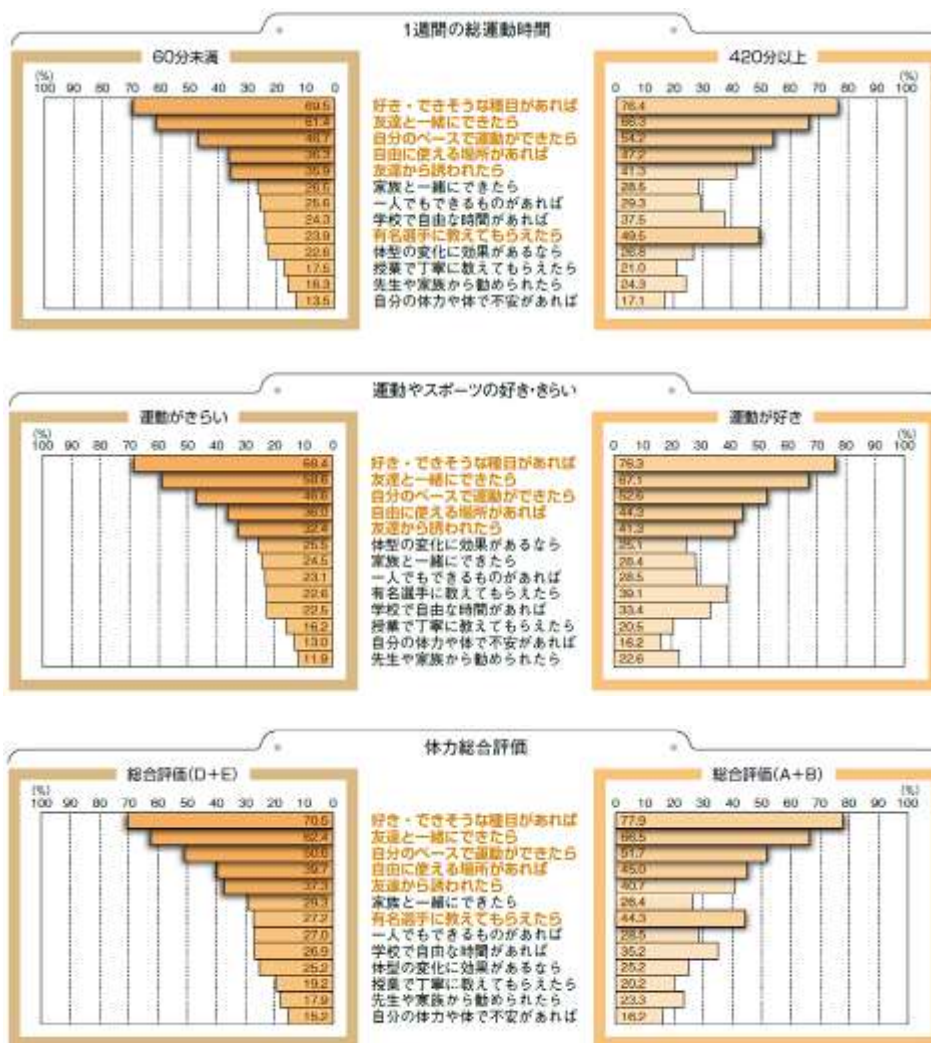
【小学校】

小学校では、男女、1週間の総運動時間、運動やスポーツの好き・嫌い、体力総合評価を問わず、もっと運動をするようになる条件として、「好き・できそうな種目があれば」「友達と一緒にできたら」「自分のペースで運動ができたなら」「自由に使える場所があれば」が上位に挙げられた。

また、1週間の総運動時間が少ない児童、運動がきらいな児童が挙げた特徴的な条件は、男子は「一人でもできるものがあれば」、女子は「友達から誘われたら」であった。

さらに、1週間の総運動時間が多い児童、運動が好きな児童、体力総合評価が A 又は B の児童が挙げた特徴的な条件は、男女ともに「有名選手に教えてもらえたら」であった。

【小学校女子】



【中学校】

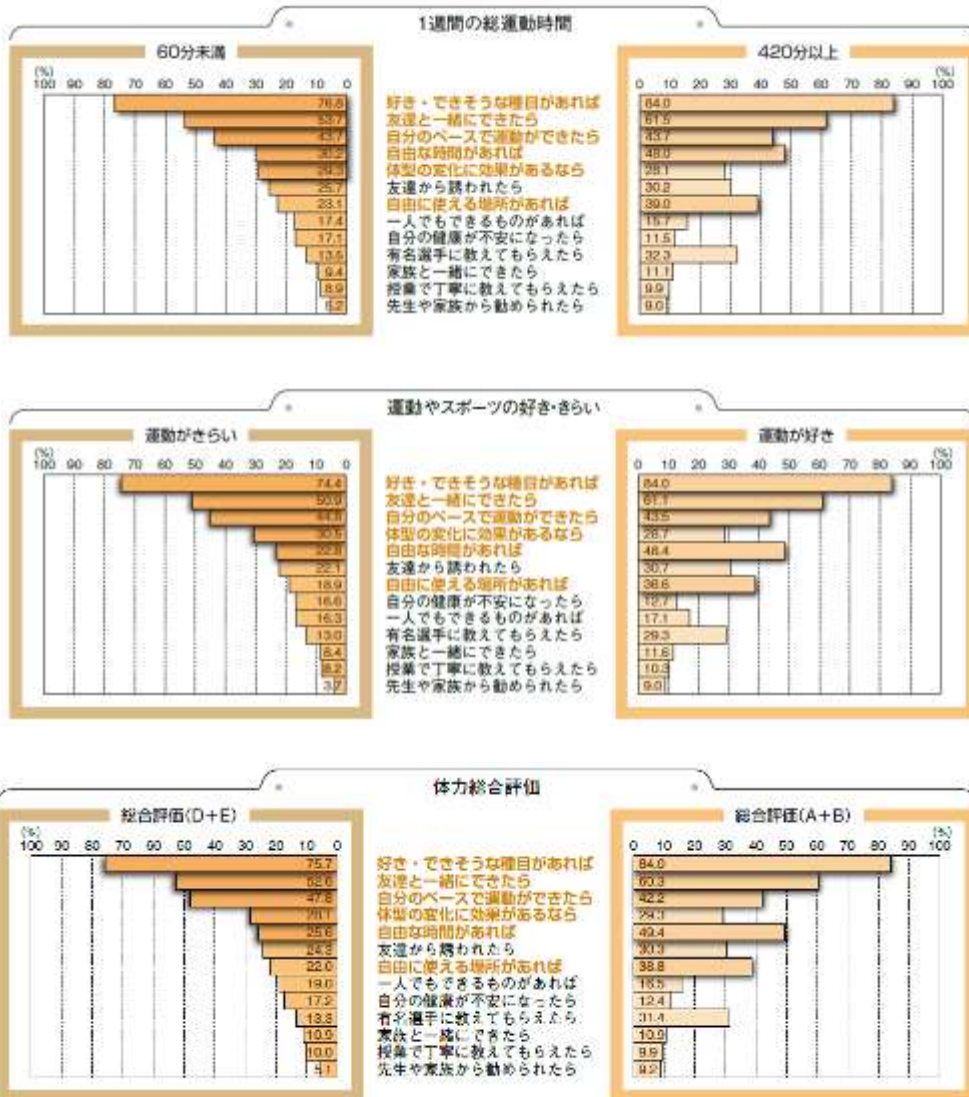
中学校男子では、1週間の総運動時間、運動の好き・嫌い、体力総合評価を問わず、もっと運動をするようになる条件として、「好き・できそうな種目があれば」「友達と一緒にできたら」「自分のペースで運動ができたなら」「自由に使える場所があれば」が上位に挙げられた。

同様に中学校女子では、「好き・できそうな種目があれば」「友達と一緒にできたら」「自分のペースで運動ができたなら」が上位に挙げられた。

また、1週間の総運動時間が少ない生徒、運動が好きな生徒が挙げた特徴的な条件は、「自由な時間があれば」であり、女子は「体型の変化に効果があるなら」であった。

さらに、1週間の総運動時間が長い生徒、運動が好きな生徒、体力総合評価がA又はBの男子が挙げた特徴的な条件は、「有名選手に教えてもらえたら」であり、女子では「自由に使える場所があれば」であった。

【中学校女子】



3 運動やスポーツが「得意・苦手」「好き・嫌い」の推移

[報告書 38p・39p、74p・75p]

運動やスポーツをすることが「得意・苦手」「好き・嫌い」に対する回答を、小学校調査では入学前、小学1・2年時、小学5年(現在)の3時点で、中学校調査では小学1・2年時、小学5・6年時、中学2年(現在)の3時点それぞれで肯定群・否定群に分類し、その推移を示した。

【小学校】

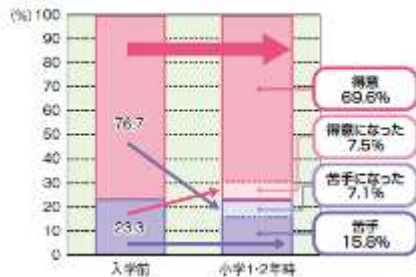
「入学前から小学1・2年時」及び「小学1・2年時から小学5年(現在)」の2時点の変化は、いずれも「得意」のままが約55%～70%前後、「好き」のままが約70%～80%前後で、「苦手」のまま・「嫌い」のままを上回った。

また、「得意」、「好き」ともに、「入学前から小学1・2年時」より、「小学1・2年時から小学5年(現在)」の方が、「得意になった」、「好きになった」割合が高かった。

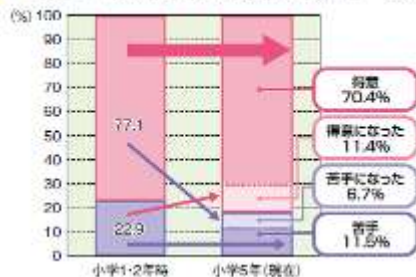
【小学校男子】

〔得意・苦手〕

●入学前から小学1・2年時への変化

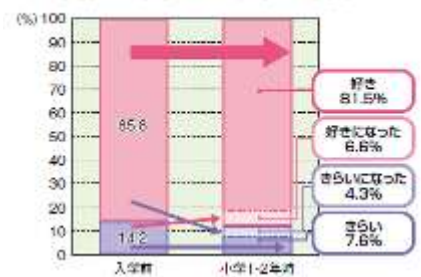


●小学1・2年時から小学5年(現在)への変化

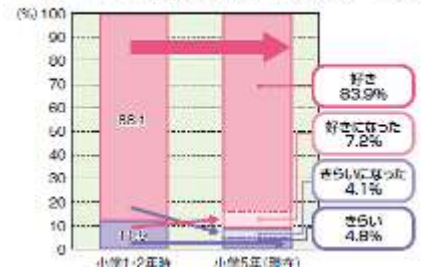


〔好き・嫌い〕

●入学前から小学1・2年時への変化



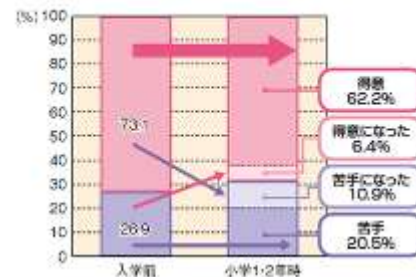
●小学1・2年時から小学5年(現在)への変化



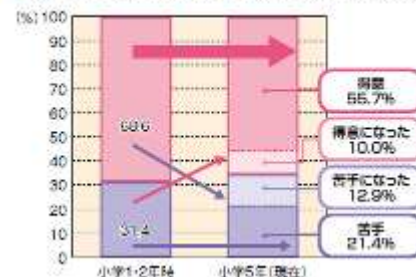
【小学校女子】

〔得意・苦手〕

●入学前から小学1・2年時への変化

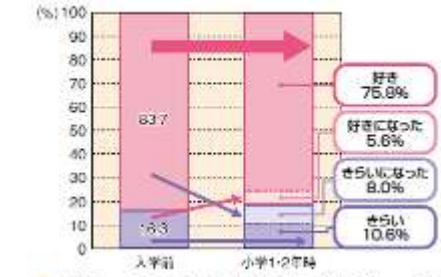


●小学1・2年時から小学5年(現在)への変化

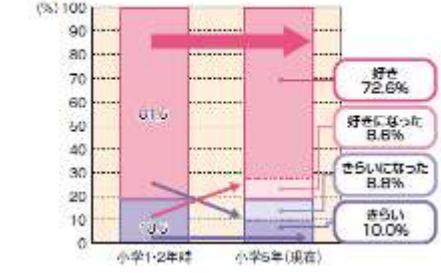


〔好き・嫌い〕

●入学前から小学1・2年時への変化



●小学1・2年時から小学5年(現在)への変化



【中学校】

「小学1・2年時から小学5・6年時」及び「小学5・6年時から中学2年(現在)」の2時点の変化は、いずれも「得意」のままが約45%~65%、「好き」のままが約65%~80%で、「苦手」のまま・「きらい」のままを大きく上回った。

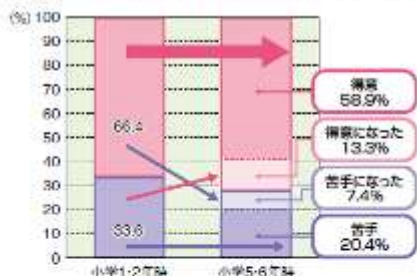
男子では、「得意」、「好き」ともに、「小学1・2年時から小学5・6年時」より、「小学5・6年時から中学2年(現在)」の方が「得意になった」「好きになった」割合が低かった。

女子では「小学1・2年時から小学5・6年時」より、「小学5・6年時から中学2年(現在)」の方が、「得意になった」割合が低く、「好きになった」割合は同値で、「きらいになった」割合が低かった。また、「小学5・6年時から中学2年(現在)」で「きらいになった」割合よりも「苦手になった」割合の方が高かった。

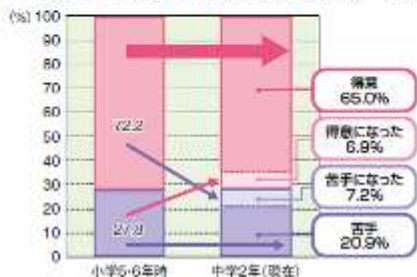
【中学校男子】

〔得意・苦手〕

●小学1・2年時から小学5・6年時への変化

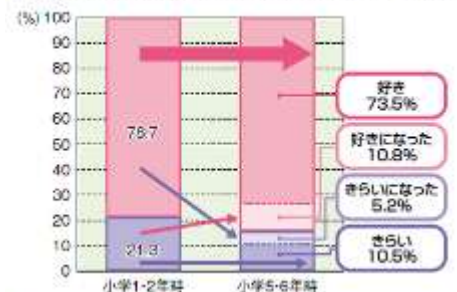


●小学5・6年時から中学2年(現在)への変化

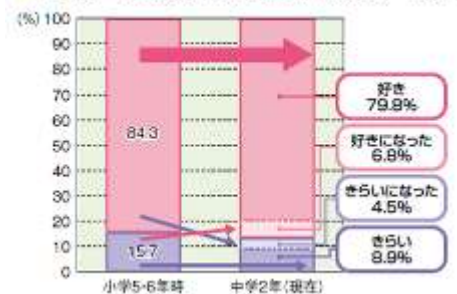


〔好き・きらい〕

●小学1・2年時から小学5・6年時への変化



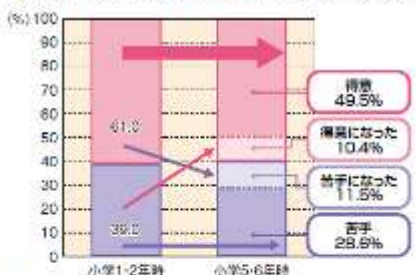
●小学5・6年時から中学2年(現在)への変化



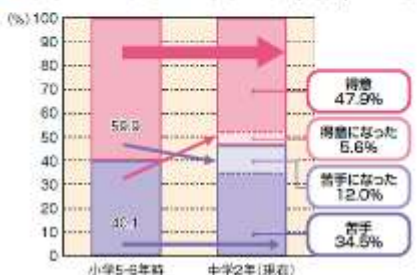
【中学校女子】

〔得意・苦手〕

●小学1・2年時から小学5・6年時への変化

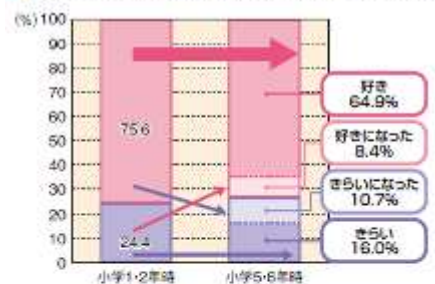


●小学5・6年時から中学2年(現在)への変化

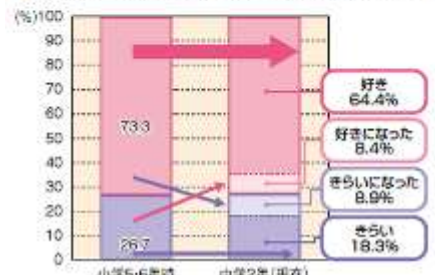


〔好き・きらい〕

●小学1・2年時から小学5・6年時への変化



●小学5・6年時から中学2年(現在)への変化



4 「(保健) 体育の授業が楽しくなった」児童生徒と、(保健) 体育の授業についての意識との関係 [報告書 40p・41p、76p・77p]

(保健) 体育の授業が楽しいかどうかについて、小学校調査では小学1・2年時と小学5年(現在)とを、中学校調査では小学5・6年時と中学2年(現在)とを比較した。

また、現在と過去とで比較可能な項目を対象に、(保健) 体育の授業が「楽しくない」から「楽しい」に変化した児童生徒の割合は、どのような条件のもとで高いかを示した。

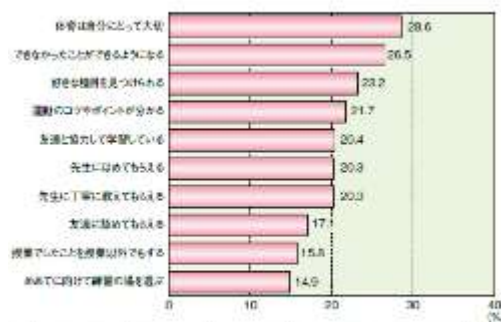
【小学校】

男女ともに「体育の授業が楽しくなった」割合が高かったのは、「体育は自分にとって大切」「できなかったことができるようになる」「好きな種目を見つけられる」に対して、それぞれ「思うようになった」場合であった。

また、「体育の授業が楽しくなった」割合が最も高くなる組み合わせを探ったところ、この3項目すべてに「思うようになった」場合で約60%であった。

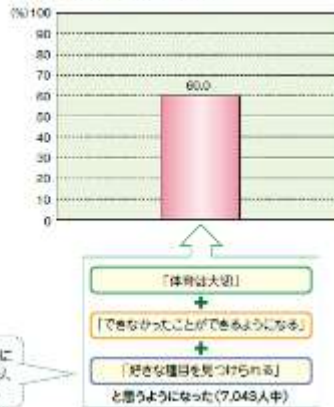
【小学校男子】

● 体育の授業についての項目(思うようになった)別



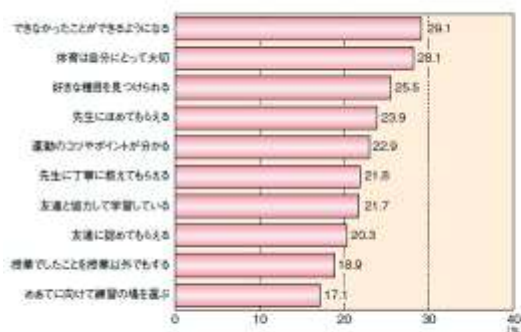
体育の授業が楽しくなったのは、小学5年男子全体(539,385人)では8.6%であったのに対し、「体育は大切」と思うようになり、かつ、「できなかったことができる」と思うようになり、かつ、「好きな種目を見つけられる」と思うようになった7,043人中では、60.0%であった。

● 体育の授業が「楽しくなった」割合が最も高くなる組み合わせ



【小学校女子】

● 体育の授業についての項目(思うようになった)別



体育の授業が楽しくなったのは、小学5年女子全体(522,859人)では7.6%であったのに対し、「体育は大切」と思うようになり、かつ、「できなかったことができる」と思うようになり、かつ、「好きな種目を見つけられる」と思うようになった6,187人中では、63.6%であった。

● 体育の授業が「楽しくなった」割合が最も高くなる組み合わせ



【中学校】

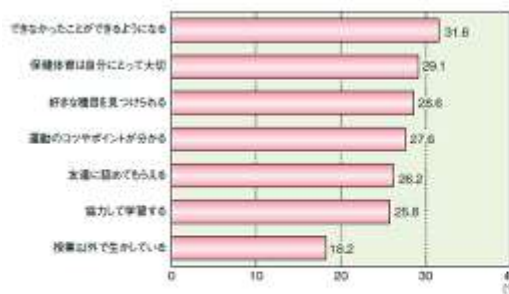
男子で「保健体育の授業が楽しくなった」割合が高かったのは、「できなかったことができるようになる」「保健体育は自分にとって大切」「好きな種目を見つけられる」に対して、それぞれ「思うようになった」場合であった。

女子で「保健体育の授業が楽しくなった」割合が高かったのは、「できなかったことができるようになる」「好きな種目を見つけられる」「友達に認めてもらえる」に対して、それぞれ「思うようになった」場合であった。

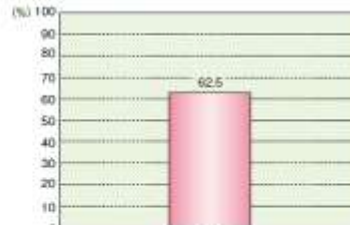
また、「保健体育の授業が楽しくなった」割合が最も高くなる組み合わせを探ったところ、男女ともに「できなかったことができるようになる」「保健体育は自分にとって大切」「好きな種目を見つけられる」の3項目すべてに「思うようになった」場合で約62%であった。

【中学校男子】

●保健体育の授業についての項目(思うようになった)別



●保健体育の授業が「楽しくなった」割合が最も高くなる組み合わせ

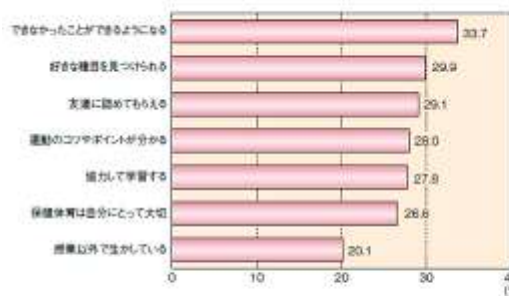


保健体育の授業が楽しくなったのは、中学2年男子全体(524,208人)では7.6%であったのに対し、「できなかったことができるようになる」と思うようになり、かつ、「保健体育は大切」と思うようになり、かつ、「好きな種目を見つけられる」と思うようになった10,043人中では、62.5%であった。

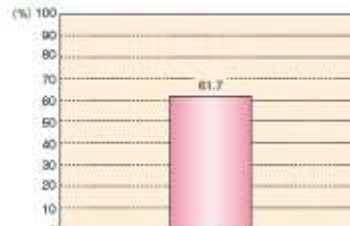


【中学校女子】

●保健体育の授業についての項目(思うようになった)別



●保健体育の授業が「楽しくなった」割合が最も高くなる組み合わせ



保健体育の授業が楽しくなったのは、中学2年女子全体(501,558人)では9.2%であったのに対し、「できなかったことができるようになる」と思うようになり、かつ、「保健体育は大切」と思うようになり、かつ、「好きな種目を見つけられる」と思うようになった10,332人中では、61.7%であった。

